



えんじゅ

春日市立春日小学校
校長室便り No.14
令和5年11月22日
文責：校長 福島

「醸成」に込めた思い



この紙面だけで思いを十分伝えられないことを承知の上で今日は書かせていただいています。

修学旅行に行ってきました。とってもいい修学旅行でした。本年度の重点目標は「わくわく感の醸成」です。この目標に向かって成長する子供の姿を随所を感じる事ができました。

「醸成」というのは、もともとは原料を発酵させて酒やしょうゆ等を作ることを指します。そこから転じて「時間をかけてじっくりつくり上げていくこと」といった意味でも使われます。「わくわく感の育成」としなかったのは、焦らず、ぶれずにじっくりと時間をかけて本当に大切なことを見失わない教育をしたい気持ちが込められています。学校は、ある面結果を求められます。その期待には応えなければなりません。しかしながら、結果を求めるあまり本来主人公である子供の思いを置き去りにすることはあってはなりません。子供一人一人の心の中から湧き出してくる思いを大切に膨らませる教育の積み重ねが、大人になった時に幸せに社会を生き抜いていくことにつながると信じています。それが「わくわく感の醸成」です。子供の内面を見抜き、寄り添う教育が求められます。

修学旅行で6年生と共に過ごした2日間、私たちが大切にしていることがしっかりと醸成されていることを感じました。共生社会を生き、つくっていく素地が育っています。修学旅行という特別な場の力があつたからこそできたこともたくさんあります。まだまだ醸成過程です。課題もたくさんあります。でもうれしかったです。

例を挙げれば数多くありますが、真意を伝えるには紙面が足りなさすぎるので抽象的な表現にとどめます。わかりにくくてすみません。

たくましく育てている子供たち、そして5年9か月かけてここまで子供たちを育ててきた職員を誇らしく思います。卒業まで67日、そして卒業後も自分の力で醸成を続けていくことができるよう力をつけていきます。